

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：82610

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K10338

研究課題名（和文）質保証と安全性を重視した看護学生の臨床実習前から新人までの看護実践教育の在り方

研究課題名（英文）Practical Nursing Education for Nursing Students from Pre-Clinical Practice to New nurses with Emphasis on Quality Assurance and Safety

研究代表者

杉山 文乃（櫻井文乃）（SUGIYAMA, FUMINO）

国立研究開発法人国立国際医療研究センター・その他部局等・国立看護大学校 教授

研究者番号：10611238

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：学修プログラム評価に有効な要素と方法の創出を目的とし、文献調査後、循環器看護師への実態調査を実施した。対象者は新人教育担当看護師および新人看護師とし、新人看護師に求められる重要行動や、新人看護師教育による職場環境改善・阻害要因の明確化を図った。調査結果は、The International Meeting on Simulation in Healthcare (IMSH2020)で発表した。学修プログラムは、3場面「病態の予測」「看護援助の確認」「看護援助の評価と報告」とし、分岐型シナリオの構想等はIMSH2022で発表した。開発したプログラムの構想は、臨地実習および学内演習に活用した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

新人看護職員となる看護学部生が、近い将来求められる看護実践能力を疑似体験する取り組みは、看護学部生の学習意欲を促進する。新人看護職員となってから看護学部生で学んだ内容の学びなおしを促す視点とは異なる独自の取り組みであり、学術的意義となると考える。

加えて、現場を想起できる教材により、看護学部生は臨床現場を想起した学習が可能となる。看護基礎教育から新人看護職員までの学習の継続性が創造され、免許を持たない看護学生の安全な看護実践は、医療安全促進の一助となり社会的にも意義の一助となると考える。

研究成果の概要（英文）：With the aim of creating effective elements and methods for evaluating academic programs, a literature review was followed by a survey of cardiovascular nurses. The subjects were nurses in charge of educating new nurses and new nurses to identify important behaviors required of new nurses and factors that improve or hinder the work environment through new nurse education. The survey results were presented at The International Meeting on Simulation in Healthcare (IMSH2020).

The learning program consisted of three scenarios: "Predicting the Pathophysiology," "Confirmation of Nursing Assistance," and "Evaluation and Reporting of Nursing Assistance," and the concept of the branching scenarios was presented at IMSH2022. The developed program concept was utilized for onsite practice and on-campus exercises.

研究分野：臨床看護

キーワード：臨地実習 新人看護師 看護学生 循環器看護 臨床看護能力 看護基礎教育

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

医療の専門化が進み、看護師も領域特有の専門知識や技術が求められる。特に呼吸器や循環器領域は、患者の苦痛を緩和するために迅速で適切な対応が必要である。しかし社会意識の変化から免許を持たない看護学生が、臨地実習で直接患者の呼吸や循環を整える場面は少ない。看護学部生の臨床実習では、指導者と共に患者に看護援助することが目標であるが、新人看護職員は先輩に同行してもらう時期はあっても、医師のような研修期間の設定はなく、一人で状況に直面して応援を呼び報告する等の判断が求められ、そのギャップは小さくない。特に呼吸や循環を整える看護技術は、看護学部生が卒後1年以内に習得する技術（厚生労働省2014）であるため、このギャップの架け橋として、患者の状況を主体的に判断し行動することを学習するプログラムが必要である。

看護学部教育や新人看護職員の集合研修でシミュレーション教育が行われている。しかし、現在のシミュレーション教育は、標準化されたプログラムの未実施など、課題が残されている。国外では、標準化されたプログラムを開発し、看護学生へ実施した効果を、新人看護師となった際の実践能力で評価している（Hayden, 2014）。それにより、従来の臨床実習時間の50%をシミュレーション教育に置き換えても、実践能力に悪影響がないことが示された。一方国内のシミュレーション教育は、新人看護職員を対象とする病院等施設での研修（厚生労働省2014）と、看護学部生を対象とする教育（厚生労働省2009）の、それぞれで開発が進んでいる。しかし、看護基礎教育と新人看護師研修の解離や継続性を明確にして統合し、看護シミュレーション教育に事前学習用eラーニングを取り入れたプログラムは見受けられない。

シミュレーション教育は、学習課題を明確にして取り組むことが推奨される少人数グループを対象とするアクティブラーニング型教材である。その反面、気づきに個人差があり、体系的な知識の教育には向かないという課題（藤崎2002）が指摘され、シミュレーション教育の前に目標を焦点化する事前準備が重要である（矢野2003）といわれている。そこでシミュレーション教育と組み合わせる事前学習に着目し、Roger Schankの教材設計理論

（SCHANK, R. C. 1996）Goal Based Scenarioに着想を得て、新人看護師の看護実践能力を看護学生の学習ゴールとする形式で事前学習教材を検討する。新人看護職員となってから看護学部生で学んだ内容の学びなおしを促す視点とは異なる独自の取り組みであり、新人看護職員となる看護学部生が、近い将来求められる看護実践能力を疑似体験する取り組みは、看護学部生の学習意欲を促進すると考える。加えて、現場を想起できる教材により、看護基礎教育から新人看護職員までの学習の継続性が創造される。一方、学習者が課題を達成するために必要な時間は個人差がある（Carroll, 1963）。1回の学習で習得できた学習者と習得できなかった学習者との差を、学習能力差とするのではなく、必要な学習時間差と捉え、適切な臨床実践に必要な知識を習得するための時間を制約せず、自由に何度でも学習できるeラーニング教材を用いた事前課題を取り入れ、学習者の学ぶ機会とする。

2. 研究の目的

本研究の目的は、看護学部生から新人看護師が継続して活用できる e ラーニングとシミュレーションを組み合わせた学習プログラム作成である。看護学部生が習得すべき基礎的看護実践能力に加え、領域に特化した看護実践を目指す看護職員が活用可能な学習プログラムを開発し、新人看護師の臨床実践能力の向上に寄与したい。

3. 研究の方法

以下に示す目標 1~4 の構成により、「e ラーニングとシミュレーションを組み合わせた呼吸・循環看護学習プログラム」が看護学部生および新人看護職員の学習到達度、適切な看護実

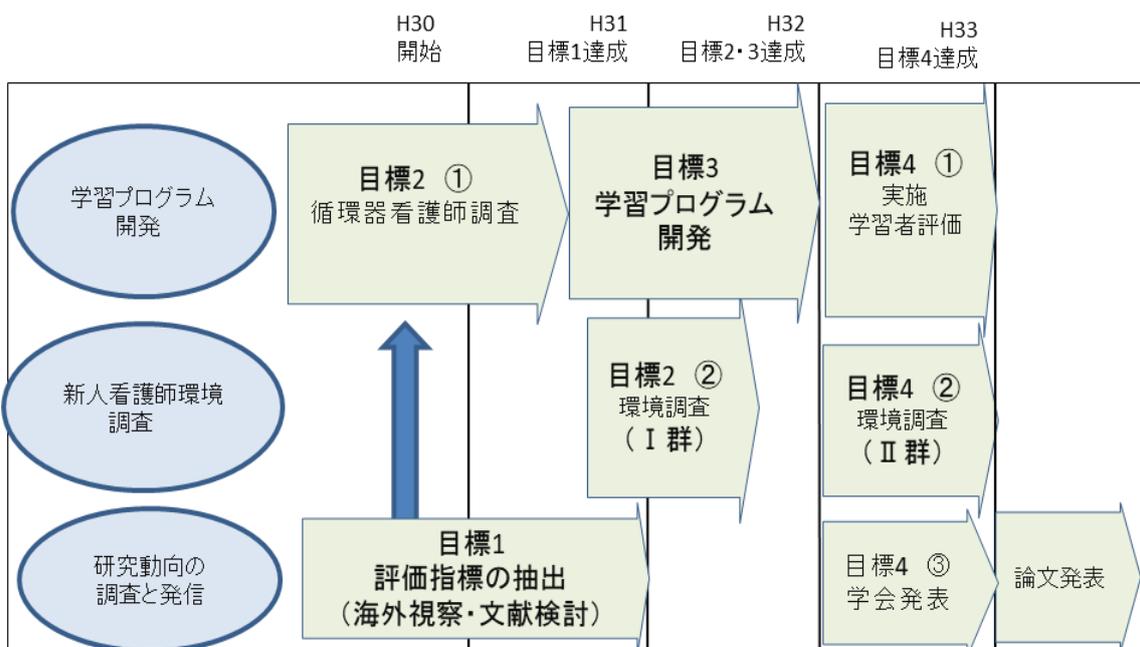


図1 研究概要

践、そして新人看護職員の職場環境変化に有効であるか明らかにする。期間と研究概要を図 1 に、研究チームの役割分担を図 2 に示す。

。

目標 1：学習プログラム開発・評価のための文献検討、海外視察

学習プログラムの評価に有効な要素と方法を創出するために看護、医学、教育等の分野で文献を検索する。また、参加型学習の効果測定に取り組む研究が多く発表される The International Meeting on Simulation in Healthcare (IMSH)に参加して動向を把握し、教材に取り入れる。

目標 2：学習プログラム開発・評価のための実態調査

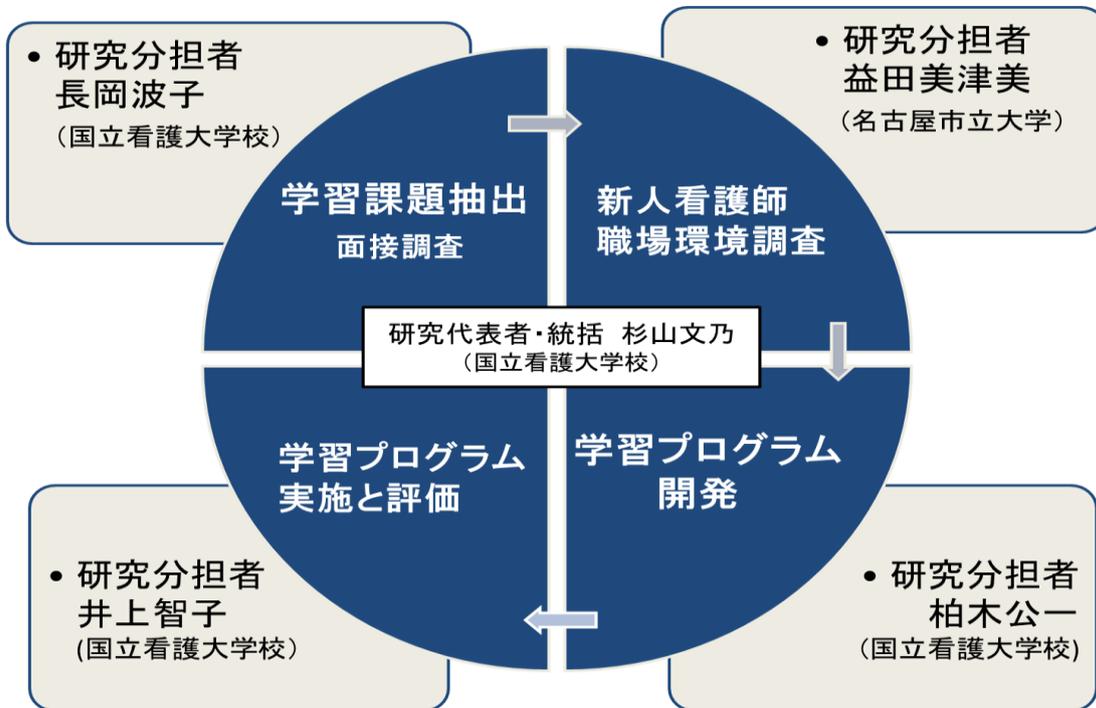
- ① 学習課題抽出
- ② 面接調査：循環領域（循環器科、CCU など）に配属された 10 年目以上の卓越した看護実践を行う看護師 10 名を対象に面接調査を行う。新人看護師に求められる重要行動を明確化する。
- ③ 新人看護職員の職場環境調査：職場環境改善の促進、阻害要因について、新人看護職員を 50 名以上募集する施設で実態調査を行う（I 群）。

目標 3：学習プログラム開発と評価

看護場面への応用を意識し、学習プログラムは3 場面で構成する。3 場面は「病態の予測」「看護援助の確認」「看護援助の評価と報告」とし、分岐型シナリオを作成する。作成したプログラムは、ADDIE モデルを用いて評価し、堅固化を図る。

目標 4：学習プログラム実施と有効性の検討

- ① 学習者評価の比較検討：看護学部生 20 名を対象に学習プログラムを実施し、満足、学習到達度を評価する。看護実践能力自己評価尺度、セルフエフィカシー尺度評価は学習プログラム実施前後で評価する。
- ② 新人看護職員の職場環境調査：学習プログラム実施後に調査した職場環境改善の促進、阻害要因評価を調査し（Ⅱ群）、標 2②で実施した職場環境改善の促進、阻害要因評価（Ⅰ群）と比較検討する。



4. 研究成果

目標 1 の文献調査の実施と目標 2 アンケート調査の準備を進めた。研究成果を見据え、国内外の専門家と情報共有するため、米国で開催される The International Meeting on Simulation in Healthcare (IMSH) 2020 のプログラムである「進行中の研究発表会」に申請し、発表の機会を得た。

(1) Research Study Development Program: Ideal way of nursing practice education from before clinical practice of nursing students with an emphasis on quality assurance and safety to new nurses. ID1055-00053

Sugiyama F, Inoue T, Masuda M, Kashiwagi K, Nagaoka N

20th International Meeting on Simulation in Healthcare (IMSH 2020) 2020年1月22日

目標2について、目標1の実施により、目標2の調査は、看護師10名を対象とする面接調査からアンケート調査に変更した。3施設に協力を依頼し、循環器領域の新人看護師21人、教育担当看護師41人による、新人看護師に求められる看護実践に関するアンケートを得た。これにより、学習プログラムの基礎となるデータを得流ことができたと考える。現在投稿準備中である。

目標3について、目標2の調査結果をもとに、学習対象を看護学生および循環器領域に新しく着任する看護師とする学習プログラムを作成してIMSH2023で発表した。

(2)Research Study Development and Presentation Program: Ideal way of nursing practice education from before clinical practice of nursing students with an emphasis on quality assurance and safety to novice nurses. Abstract Type: Research Study Development and Presentation Program #1175-002194

Fumino SUGIYAMA, Tomoko INOUE, Mitsumi MASUDA, Kimikazu KASHIWAGI, Namiko NAGAOKA
The 23rd International Meeting on Simulation in Healthcare (IMSH 2023)

目標4について、目標3で作成したプログラムを活用し、新人看護師を対象とした研修『国立看護大学校研修部「臨床推論を看護に活かそう」』を実施し、14名の参加者を得た。プログラム無内容は概ね好評を得た。

目標3~4の時期はCOVID19感染拡大時期と重なり、2回の期間延長の機会を得たが、臨床看護師を対象とする調査の実施は難しく、作成した学習プログラムを当初の計画通りに実施することは困難であり課題が残った。その一方で、臨床実習が難しくなったことによるeラーニングやシミュレーション教育のニーズが高まり、研修の機会を得ることができた。

引用文献

藤崎和彦. (2002) 医療面接とコミュニケーション教育. 現代医療, 34(7), 1591-1596.

Hayden, Jennifer K. Smiley, Richard A. Alexander, Maryann. Kardong-Edgren, Suzan.

Jeffries, Pamela R. (2014) The NCSBN National Simulation Study: A Longitudinal, Randomized, Controlled Study Replacing Clinical Hours with Simulation in Prelicensure Nursing Education. JOURNAL OF NURSING REGULATION. VOLUME 5, ISSUE 2 JULY 2014 Supplemental Meeting on Simulation in Healthcare. Florida, USA, January, 2017.

厚生労働省. (2014) 新人看護職員研修【改訂版】 https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/0000049466_1.pdf

厚生労働省. (2009) 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度 <https://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/04/dl/s0428-8m.pdf>

SCHANK, R. C. (1996). Goal-Based Scenarios: Case-Based Reasoning Meet Learning by Learning by doing. In D. Leake (Ed.), Case-Based Reasoning: Experience, Lessons & Future Directions. AAAI Press/The MIT Press.

矢野理香. (2003) フィジカルアセスメントの模擬患者演習における学生の学び. 天使大学紀要, 3, 1-11.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Fumino SUGIYAMA , Tomoko INOUE , Mitsumi MASUDA , Kimikazu KASHIWAGI , Namiko NAGAOKA .
2. 発表標題 Ideal way of nursing practice education from before clinical practice of nursing students with an emphasis on quality assurance and safety to novice nurses. .
3. 学会等名 2023 The International Meeting on Simulation in Healthcare (IMSH)米国（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Fumino SUGIYAMA , Tomoko INOUE , Mitsumi MASUDA , Kimikazu KASHIWAGI , Namiko NAGAOKA
2. 発表標題 Ideal way of nursing practice education from before clinical practice of nursing students with an emphasis on quality assurance and safety to new nurses.
3. 学会等名 The 2020 International Meeting on Simulation in Healthcare (IMSH)（国際学会）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	井上 智子 (Inoue Tomoko) (20151615)	国際医療福祉大学・大学院・教授 (32206)	
研究分担者	柏木 公一 (Kashiwagi Kimikazu) (20334378)	国立研究開発法人国立国際医療研究センター・その他部局等・国立看護大学校 (82610)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	長岡 波子 (Nagaoka Namiko) (20796297)	国立研究開発法人国立国際医療研究センター・その他部局等・国立看護大学校 助教 (82610)	
研究分担者	益田 美津美 (Masuda Mitsumi) (60384153)	名古屋市立大学・大学院看護学研究科・准教授 (23903)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関